

## 1-9 フランス語学フランス文学

### 研究・教育活動の概要と特色

当専攻分野はフランス文学・フランス語学を中心に、フランス語を窓口とするフランス語圏全般の文化・歴史を対象とする研究活動を行っている。阿部宏教授はフランス語学、今井勉准教授、ヤン・メヴェル准教授はフランス文学が専門であるが、言語における主観性概念・日仏英対照言語学（阿部）、ヴァレリーの未刊草稿研究・フランス語圏文学・クレオール文化・象徴主義・複合型文学（今井）、ベケット研究・デュラス研究・文学におけるメランコリー・フランス地域文学・フランス文学における日本の象徴（メヴェル）、などその関心領域は多岐にわたっている。いずれにおいても緻密なテキスト読解、また文献資料や実例の具体的検討にもとづく堅実な研究態度は、講座創設以来の伝統である。

学部卒業の要件として卒業論文の執筆を義務づけており、学部教育においてはフランス語テキストを含む諸文化表象の読解のしかたを基礎から学ばせると同時に、各々の感性を通じて読み取ったものをいかに論理的、説得的に表現するかについて、その方法論を養うことを主眼とした授業も開講している。大学院では、少人数制の利点を活かし、前期課程において、テキストの精読、参考文献の活用法など、専門研究の基礎を学習させる。同時に、文学の院生も語学研究の基礎を、語学の院生も文学研究の基礎を学び、文学・語学について総合的な知識を身につけるよう指導している。後期課程においては、論文執筆や研究発表の実践的指導を綿密に行っており、全国学会の学会誌への投稿や学会発表を奨励している。また、当専攻分野出身の研究者と院生を主たる会員とする学会誌を刊行しており、院生はここに積極的に論文執筆を行っている。学部から博士後期課程を通じて、生きたフランス語の表現能力を養うためフランス留学を奨励しているのも当専攻分野の大きな特色である。

### I 組織

#### 1 教員数（2009年9月末現在）

教授：1

准教授：2（含フランス人教員1）

講師：0

助教：0

教授：阿部 宏

准教授：今井 勉，ヤン・メヴェル

## 2 在学生数（2009年9月末現在）

学部 (2年次以上)	学部 研究生	大学院博士 前期	大学院博士 後期	大学院 研究生
25	0	8	7	0

## 3 修了生・卒業生数（2005～2009年度）

年度	学部卒業生	大学院博士課程 前期修了者	大学院博士課程 後期修了者 (含満期退学者)
05	4	1	1
06	4	2	0
07	8	1	0
08	7	5	1
09	0	0	0
計	23	9	2

\*2009年度は、9月末までの数字

## II 過去5年間の組織としての研究・教育活動（2005～2009年度）

### 1 博士学位授与

#### 1-1 課程博士・論文博士授与件数

年度	課程博士授与件数	論文博士授与件数	計
05	0	0	0
06	0	0	0
07	0	0	0
08	1	0	1
09	0	0	0
計	1	0	1

\*2009年度は、9月末までの数字

#### 1-2 博士論文提出者氏名、年度、題目、審査委員

島貫葉子、2008年度、Un << lyrisme critique >> : les formes, métamorphoses et mises à l'épreuve du lyrisme dans la première trilogie de Samuel Beckett

審査委員：教授・阿部宏（主査）、准教授・ヤン・メヴェル、准教授・今井勉、准教授・岩田美喜

## 2 大学院生等による論文発表

### 2-1 論文数

年度	審査制学術誌 (学会誌等)	非審査制誌 (紀要等)	論文集 (単行本)	その他	計
05	2	0	0	0	2
06	5	0	0	0	5
07	2	0	2	0	4
08	3	1	0	0	4
09	2	1	0	0	3
計	14	2	2	0	18

\*2009年度は9月末までの数字。ただし、以後の掲載が決定しているものも含む。

### 2-2 口頭発表数

年度	国際学会	国内学会	研究会	その他	計
05	0	4	3	2	9
06	1	2	3	1	7
07	0	1	0	0	1
08	0	2	2	1	5
09	0	4	0	1	5
計	1	13	8	5	27

\*2009年度は9月末までの数字。ただし、以後の掲載が決定しているものも含む。

### 2-3 上記の大学院生等による論文・口頭発表の中の主要業績

#### (1) 論文

辻野稔哉（専門研究員）「カドラージュ -フランス語文法-」（熊本哲也との共著），  
駿河台出版社，2005年4月1日。

宮本直規（DC）「直接目的語属詞構文での現在分詞の形容詞性」，『フランス  
文学研究』（東北大学フランス語フランス文学会）第26号，pp. 67-78，2006  
年2月。

宮本直規（DC）「前置型現在分詞節の自立性」，『フランス文学研究』（東北大  
学フランス語フランス文学会）第28号，pp. 55-69，2008年2月。

- 宮本直規 (DC) 「"voilà","il y a"に後続する現在分詞節」, 『フランス文学研究』 (東北大学フランス語フランス文学会) 第29号, pp. 36-50, 2009年2月.
- 島貫葉子 (DC) 「Lisière et horizon chez Samuel Beckett - le lyrisme et le motif de la fenêtre dans *Malone meurt* -」, 『フランス文学研究』 (東北大学フランス語フランス文学会) 第27号, pp. 39-47, 2007年2月.
- 島貫葉子 (専門研究員) 「Affectation d'impassibilité et « lyrisme critique » dans la première trilogie de Samuel Beckett」, 『Nord-Est』 (日本フランス語フランス文学会東北支部会支部会報) 第2号, pp. 77-87, 2009年9月.
- 荒川恒治 (DC) 「形容詞「深い」"profond"の抽象的意味の分析」, 『フランス文学研究』 (東北大学フランス語フランス文学会) 第29号, pp. 21-35, 2009年2月.
- 廣松勲 (DC) 「戦略としての「冒瀆的信仰」」, 『フランス文学研究』 (東北大学フランス語フランス文学会) 第27号, pp. 48-60, 2007年2月.
- 廣松勲 (DC) 「フランス語圏旧植民地におけるジェンダー—カリブ海域文学におけるジェンダー表象—」, 『男女共同参画社会の法と政策/ジェンダー法・政策研究センター年報』 (東北大学21世紀COEプログラム「男女共同参画社会の法と政策」出版委員会編集) 第4号, pp. 157-167, 2007年4月.
- 廣松勲 (DC) 「Remémoration créative dans *Au bout d'enfance* de Patrick Chamoiseau」, 『フランス文学研究』 (東北大学フランス語フランス文学会) 第28号, pp. 41-54, 2008年2月.
- 廣松勲 (DC) 「フランス語圏カリブ海域におけるクレオール文学運動の問題機制」, 『ポストコロニアル批評の諸相』 (東北大学若手研究者萌芽研究育成プログラム採択課題: 「ポストコロニアリズムのテキストにおけるアイデンティティ表象の比較文化史的研究」), 東北大学出版会叢書, pp. 233-263, 2008年3月.
- 廣松勲 (DC) 「Identité migrante ou impossible dans *Les urnes scellées* d'Emile Ollivier」, 『フランス文学研究』 (東北大学フランス語フランス文学会), 第29号, pp. 1-20, 2009年2月.
- 廣松勲 (DC) 「Remémoration créative de Patrick Chamoiseau —La description de la « non-espace » dans *Un Dimanche au Cachot*」, 『フランス語フランス文学研究』 (日本フランス語フランス文学会), 第95号, pp. 141-156, 2009年9月.
- Yosuke FUKAI (DC) À propos du progrès poétique chez Rimbaud, 『フランス語フランス文学研究』 (日本フランス語フランス文学会) 第87号, 2005年6月.

月.

深井陽介 (DC) 「他声と多声の詩学-ランボー、「地獄の夜」における「ぼく」の声の位相-」, 『文化』第 70 卷 1・2 号, 東北大学文学会, pp.156-134, 2006 年 9 月.

深井陽介 (DC) L'écriture du rêve dans Une Saison en enfer, in Cahier Multiculturel de la Maison du Japon, No 3, 2009, à paraître.

佐藤由夏理 (MC) 「『失われた時を求めて』における baromètre をめぐって」, 『フランス文学研究』 (東北大学フランス語フランス文学会) 第 27 号, pp. 23-38, 2007 年 2 月.

上田督 (MC) 「歌われた言葉 - ルソーと『言語起源論 - あわせて旋律と音楽的写生について論ず』」, 『フランス文学研究』 (東北大学フランス語フランス文学会) 第 27 号, pp. 1-22, 2007 年 2 月.

## (2) 口頭発表

宮本直規 (DC) 「<知覚動詞 <voir> + 名詞句 + 現在分詞>型構文について」, 日本フランス語フランス文学会春季大会 (於立教大学), 2005 年 5 月 28 日.

宮本直規 (DC) 「N-voir-N-現在分詞型構文での現在分詞のアスペクト—en train de Inf との比較を通じて—」, 第 3 回東北フランス語研究会 (於東北大学), 2006 年 3 月 27 日.

宮本直規 (DC) 「《N0 - voir N1 現在分詞》構文での質的限定 - N0 と対象との距離」, フランス言語学勉強会 (於慶應義塾大学), 2006 年 11 月 11 日.

宮本直規 (DC) 「前置ジェロンディフ節・分詞節と補語」, 第 4 回東北フランス語研究会 (於東北大学), 2007 年 3 月 16 日.

宮本直規 (DC) 「提示表現と共起する現在分詞節」, 第 5 回東北フランス語研究会 (於東北大学), 2008 年 9 月 6 日.

島貫葉子 (DC) 「ベケットとニヒリズム - 評論『プルースト』における引用の問題」, 早稲田大学演劇研究センター 21 世紀 COE プログラム (於早稲田大学), 2005 年 6 月 18 日.

島貫葉子 (DC) 「Lisière et horizon chez Samuel Beckett - Crise ou évolution du lyrisme? -」, Borderless Beckett 国際サミュエル・ベケット・シンポジウム (於早稲田大学), 2006 年 9 月 30 日.

島貫葉子 (DC) 「Les formes, métamorphoses et mises à l'épreuve du lyrisme dans la

- trilogie de Samuel Beckett - lyrisme et souffrance -」, 「Angela Moorjani 氏講演会」, 日本サミュエル・ベケット研究会主催, (於早稲田大学), 2008年3月22日.
- 島貫葉子 (DC) 「サミュエル・ベケットの小説三部作におけるリリスムの諸相ーリリスムと白いエクリチュールー」, 日本フランス語フランス文学会東北支部大会 (於福島大学サテライト), 2008年11月29日.
- 島貫葉子 (専門研究員) 「サミュエル・ベケットの“リリスム・クリティック”ー前期小説三部作における自己同一性と空間表象の問題ー」, 日本フランス語フランス文学会 (於中央大学), 2009年5月23日.
- 荒川恒治 (DC) 「『悪の華』 (第二版) の「皮肉な」結末」, 日本フランス語フランス文学会秋季大会 (於新潟大学), 2005年10月15日.
- 荒川恒治 (DC) 「望ましさと形容表現について」, 第3回東北フランス語研究会 (於東北大学), 2006年3月27日.
- 荒川恒治 (DC) 「「深さ」のメタファーと認識スキーマの投射」, 第4回東北フランス語研究会 (於東北大学), 2007年3月16日.
- 荒川恒治 (DC) 「形容詞「深い」”profond”と発話主体の評価について」, 第5回東北フランス語研究会 (於東北大学), 2008年9月6日.
- 荒川恒治 (DC) 「形容詞 *profond* の抽象的意味の分析」, 日本フランス語フランス文学会本会春季大会 (於中央大学), 2009年5月23日.
- 廣松勲 (DC) 「Patrick Chamoiseau の『幼年期の果てに』における幼年期の想起と創造 - 「自伝」と「小説」の間で -」, 日本フランス語フランス文学会秋季大会 (於新潟大学), 2005年10月15日.
- 廣松勲 (DC) 「フランス語圏旧植民地におけるジェンダーーカリブ海域文学におけるジェンダー表象ー」, 東北大学 21世紀 COE プログラムー男女共同参画社会の法と政策ーの「ジェンダー法・教育クラスター研究会」 (於東北大学), 2006年3月16日.
- 廣松勲 (DC) 「フランス語圏カリブ海域におけるクレオール文学の問題機制ークレオール文学とは何か?ー」, 第7回ポストコロニアル研究会 (東北大学 若手研究者萌芽研究育成プログラム採択課題: 「ポストコロニアリズムのテキストにおけるアイデンティティ表象の比較文化史的研究」の一環) (於東北大学), 2006年7月21日.
- 廣松勲 (DC) 「『偉大なるソリボ』における自己表象の戦略ー”パトリック・シャモワゾー”とは何者か?ー」, 日本フランス語フランス文学会 (於岡山大学), 2006年10月28日.

廣松勲 (DC) 「忘却, 痕跡, 創造的想起-P. シャモワゾーの『独房での日曜日』を中心に」, 日本フランス語フランス文学会 (於岩手大学), 2008年11月8日.

廣松勲 (DC) 「エミール・オリヴィエ『パッセージ』における時空間表象 (仮題)」, 日本フランス語フランス文学会・東北支部会 (於山形大学), 2009年11月28日 (予定) .

深井陽介 (DC) 「Rimbaud, à la recherche des temps perdus」, 日本フランス語フランス文学会 (於慶應義塾大学), 2006年10月2日.

深井陽介 (DC) L'Automne de Yasujiro,-Soirée des films du cinéaste japonais, Ozu Yasujiro-, décembre 2006, à la Maison du Japon, CIUP, Paris.

深井陽介 (DC) "L'écriture du rêve dans Une Saison en enfer", colloque du centre d'études multiculturelles, (於パリ国際大学都市日本館), 2008年10月.

深井陽介『地獄の季節』 「錯乱I—狂った処女—」における多声構造」 日本フランス語フランス文学会, (於中央大学), 2009年5月.

庄司麻美 (MC) 「depuis の空間的用法について」, フランス語学勉強会 (於慶應義塾大学), 2006年5月21日.

庄司麻美 (MC) 「depuis の空間的用法について」, 日本フランス語学会第225回例会 (於東京大学), 2005年6月18日.

佐藤由夏理 (DC) 「プルーストの晴雨計」, 日本フランス語フランス文学会秋季大会 (於関西大学), 2007年11月11日.

塚本有史 (MC) 「アレクサンドル・デュマのフェミニズム - 『三銃士』における女性描写」, 日本フランス語フランス文学会東北支部会 (於岩手県立大学), 2006年12月2日.

翠川博之「倫理のパラドクスと回転装置」, シンポジウム「サルトルのモラル論人間, 他者, 歴史をめぐって」 (東北大学大学院文学研究科フランス語学フランス文学研究室主催) (於東北大学), 2009年10月9日.

### 3 大学院生・学部生等の受賞状況

サリナ (MC) 05年度 東北大学藤野記念賞.

### 4 日本学術振興会研究員採択状況

なし

## 5 留学・留学生受け入れ

### 5-1 大学院生・学部学生等の留学数

2005年度 学部1名，ストラスブール第二大学（フランス），大学院2名，パリ第一大学（フランス），パリ第四大学（フランス）うち留学先でのDEA取得は2名。

2006年度 学部1名，ストラスブール大学（フランス），大学院2名，パリ第四大学（フランス），モントリオール大学（カナダ）

2007年度 学部2名，ストラスブール大学（フランス），大学院4名，パリ第四大学（フランス），モントリオール大学（カナダ），パリ第一大学（フランス），レンヌ第二大学（フランス）

2008年度 大学院1名，ストラスブール第二大学（フランス）

2009年度 学部1名，ストラスブール第二大学（フランス）

### 5-2 留学生の受け入れ状況

年度	学部	大学院	計
05	0	0	0
06	0	0	0
07	1	0	1
08	1	0	1
09	1	0	1
計	3	0	3

## 6 社会人大学院生の受け入れ状況

年度	前期課程	後期課程	計
05	0	0	0
06	0	0	0
07	0	0	0
08	0	0	0
09	1	0	1
計	1	0	1



## 7 専攻分野出身の研究者・高度職業人

### 7-1 専攻分野出身の研究者

2006年度 サリナ 北航中法工程師範学院（中国） 講師

2006年度 翠川博之 東北大学 文学研究科 助教

2008年度 辻野稔哉 秋田大学 准教授

計3名

### 7-2 専攻分野出身の高度職業人（中高教員）

なし

## 8 客員研究員の受け入れ状況

なし

## 9 外国人研究者の受け入れ状況

なし

## 10 刊行物

『フランス文学研究』，東北大学フランス語フランス文学会，年刊

### 11 学会・研究会・講演会・シンポジウム等の開催・事務局等引き受け状況

2005年10月 Michel Jarrety 氏講演会（司会，今井勉）

2005年12月 シンポジウム「フランス研究とフランス語教育について考える」  
（小田中直樹，森田直子，山元一，西山教行，オーガナイズ・  
司会：阿部宏）主催

2006年10月 Albert Prevos 氏講演会（司会，阿部宏）

2007年12月 日本フランス語フランス文学会東北支部会開催

2007年12月 シンポジウム「生成論」（今井勉，佐藤伸宏，司会：阿部宏）

2008年1月 シンポジウム「ソーシャル 150年 -新手稿・主体・時間・人  
称・倫理-」（小野文，松澤和宏，翠川博之，阿部宏，山本史  
華，オーガナイズ：阿部宏，司会：今井勉）

2008年8月 赤羽研三氏講演会「ヴァーチャルな体験としての小説」（司  
会：阿部宏）

2009年2月 金澤忠信氏講演会「ソーシャルの世紀末」（司会：阿部宏）

- 2009年4月 Antoine Compagnon 氏講演会「Le roman photographique d'aujourd'hui」(司会：今井勉)
- 2009年6月 Philippe Berthier 氏講演会「Stendhal et Racine」(司会：阿部宏)
- 2009年9月 Colloque international Orients de Marguerite Duras (オーガナイズ：Yann MEVEL, 今井勉)
- 2009年10月 シンポジウム「サルトルのモラル論 人間・他者・歴史をめぐって」(澤田直, 竹本研史, 水野浩二, 翠川博之, オーガナイズ：翠川博之, 司会：島貫葉子)

## 1 2 専攻分野主催の研究会等活動状況

### 1) フランス語学・フランス文学研究会(専攻分野内研究会)

#### 2005年度

第30回：2005年4月15日, 第31回：2005年5月28日, 第32回：2005年6月24日, 第33回：2005年7月15日, 第34回：2005年9月9日, 第35回：2005年10月21日, 第36回：2005年11月18日, 第37回：2005年12月16日, 第38回：2006年1月20日.

#### 2006年度

第39回：2006年5月16日, 第40回：2006年6月16日, 第41回：2006年7月21日, 第42回：2006年11月2日, 第43回：2006年11月24日, 第44回：2006年12月8日.

#### 2007年度

第45回：2007年5月25日. 第46回：2007年6月29日, 第47回：2007年7月30日, 第48回：2007年9月27日. 第49回：2007年11月6日. 第50回：2007年12月6日.

#### 2008年度

第51回：2008年4月25日. 第52回：2008年5月30日, 第53回：2008年6月27日. 第54回：2008年9月26日. 第55回：2008年11月14日. 第56回：2008年12月12日.

#### 2009年度

第57回：2009年4月24日. 第58回：2009年6月19日. 7月24日.

### 2) 東北フランス語研究会

#### 2005年度

第3回東北フランス語研究会（於東北大学）：

宮本直規（DC）「N-voir-N-現在分詞型構文での現在分詞のアスペクト—en train de Inf との比較を通じて—」；阿部宏（教授）「トートロジーと望ましき概念」；荒川恒治（DC）「望ましきと形容表現について」；酒井智宏（東京大学 COE 研究員）「スペース間コピュラ文としてのトートロジー」；川島浩一郎（福岡大学）「代名詞と従属節」，2006年3月27日。

2006年度

第4回東北フランス語研究会（於東北大学）：

荒川恒治（DC）「垂直下方向型メタファー《profond》とその体系の一貫性について」；阿部宏（東北大学）「ソシユールの恣意的体系概念について」；宮本直規（DC）「前置ジェロンディフ節・分詞節と補語」；川島浩一郎（福岡大学）「前置詞 comme をめぐる indistinction について」，2007年3月16日。

2008年度

第5回東北フランス語研究会（於東北大学）：

川島浩一郎（福岡大学）「固有名詞と冠詞について」；宮本直規（東北大学 DC）「提示(voilà, il y a)の2次的叙述と現在分詞」；阿部宏（東北大学）「主観性の日仏対照」；酒井智宏（慶應義塾大学）「トートロジーと全称命題」；荒川恒治（東北大学 DC）「形容詞「深い」《profond》と発話主体の評価」，2008年9月6日。

### 1.3 組織としての研究・教育活動に関する過去5年間の自己点検と評価

阿部宏教授（フランス語学，対照言語学），今井勉准教授（フランス文学，クレオール文学），ヤン・メヴェル准教授（フランス文学，フランス地域文学）の3名が専攻の研究・教育活動に従事している。スタッフ数は少ないながら，専門領域においてヴァリエーション豊かでバランスに富んだ陣容であり，その研究対象も従来の狭い意味でのフランス文学・語学研究の領域を超えたものとなっている。また，教員スタッフ全員が博士号を取得している。

スタッフ間の学問的関心は相互に有機的に重なり合う面も多く，研究面での情報交換は大学院生や卒業生も交えて常に活発に行われている。世代の違いを超えて，教員，大学院修了者，大学院生，学部生間の交流が密で一体感があるのは，東北大仏文の伝

統であり、研究室は常に知的な刺激に満ちた場となっている。

教員は、国内学会のみならず、国際学会での発表や司会、海外研修、海外誌への執筆を積極的に行っており、講義や内部の研究会等を通じてその成果を院生に披露することを常に心がけている。また、他大学での集中講義、公開講座、講演会の講師を担当し、自らの研究内容を精力的に外部に発信することに努めている。教育活動は専門領域にとどまらず、文学部1年対象の講義、学部1、2年対象の全学教育にも積極的に関与し、後者において全学部の学生にフランス語の基礎文法、講読、作文、会話などを教えると同時に、前者においては初学者にフランス文化の面白さを伝え、フランス語教育の裾野を広げる努力を行ってきた。さらに、当専攻分野では、外国人研究者、作家などを招いての講演会やコロック、あるいはフランス語教育、フランス文学、フランス語学関連のシンポジウムを頻繁に開催し、スタッフのみならず院生・学部生、東北圏の研究者にも研究の最前線に触れる機会を提供している。

学外の活動としては、日本フランス語学会編集委員・運営委員・学会誌編集長、日本フランス語フランス文学会編集委員など、全国学会で主要な役職を担当してきた。

学部学生の卒業論文は現代文学、近代詩、語学研究といった伝統的領域での研究が大部分を占めるが、ここ数年の傾向として映画、雑誌、料理等の文化表象一般にも関心が広がっている。近年、学生の関心にあわせて多様な講義を提供してきた効果が現れていると言えるだろう。

大学院は定員が各学年、修士2名、博士1名と小規模である利点を生かして、論文執筆、研究発表の予行練習など、綿密な指導を日常的に施している。院生は概して論文執筆や研究発表に積極的で、前期課程の段階から論文を発表する者もあり、後期課程ではほぼ全員が日本フランス語フランス文学会、日本フランス語学会など全国規模の学会での発表を経験している。査読を通過し、学会誌に原稿が掲載される例も増えつつある。

また、大学院在学者のほぼ全員がフランス留学を経験している。かつてはフランス政府給費やロータリー財団奨学生としての留学が多かったが、最近では制度が整ってきた学内の交換留学制度を利用したり、日仏共同博士課程などの制度を利用する留学が増加している。留学経験を経て、学会発表をフランス語で行い、論文を仏文で書く者、市役所嘱託の通訳を務めた者などもあり、院生のフランス語運用能力はここ数年で飛躍的に伸びてきている。ルノー財団の奨学生としてフランスで経営学修士を取得し、帰国後、フランス大使館経済部や国際的企業に就職する例もでてきている。当専攻分野での教育活動は、フランス語を生かした高度職業人養成の機能をも果たしつつある。

### Ⅲ 教員の研究活動（2005～2009 年度）

#### 1 教員による論文発表等

##### 1-1 論文

齊藤征雄 「仏語表現クレオール文学の詩学」, 平成 15,16 年度科学研究費補助金による研究成果報告書 (研究課題番号 15520142), 2005.

齊藤征雄 「小泉八雲における霊的なもの」, 『秋田文学』15 号, pp. 38-51, 2005 年.

齊藤征雄 「フランスの食文化」, 『食に見る世界の文化』東北大学出版会, pp.73-116, 2007 年 4 月.

阿部宏 「ソーシャルと主体性概念について」, 『文化』(東北大学文学会) 第 69 巻 1/2 号, pp. 1-22, 2005 年 9 月 22 日.

阿部宏 「言語における尺度の主観化について -熟語 *qui plus est* を中心に-」, 『フランス語学研究の現在 -木下教授喜寿記念論文集-』(木下教授喜寿記念論文集編集委員会), 白水社, pp. 197-216, 2005 年 11 月 10 日.

Hiroshi ABE 《A propos de la notion de désirabilité dans le langage》, *Cognition et émotion dans le langage* (Edité par J. Kawaguchi, K. Kida et K. Maejima), Keio University, Center for Integrated Research on the Mind, pp. 207-222, 2006 年 3 月 15 日.

阿部宏 「熟語「多少」と主体化について」, 『日本認知言語学会論文集』第 6 巻, pp. 54-63, 2006 年 9 月 10 日.

Hiroshi ABE 《Les deux grandes choses que Saussure n'a pas dite》, *Saussure et la science des textes, 21st Century COE Program International Conference Series No. 9*, Graduate School of Letters, Nagoya University, pp. 5-17, 2007 年 3 月 27 日.

阿部宏 「ソーシャルが言わなかった大きな二つのこと」, *21st Century COE Program International Conference Series No. 9*, Graduate School of Letters, Nagoya University, pp. 87-98, 2007 年 3 月 27 日. (上記論文の日本語版)

Hiroshi ABE 《La locution *encore moins* et l'échelle de probabilité》, *Actes du XXIVe Congrès International de Linguistique et de Philologie Romanes*, Max Niemeyer Verlag (Tübingen), Volume 4, pp. 487-494, 2007 年 9 月.

阿部宏, 「比較文法を批判してソーシャルが考えたこと」, 『思想』(岩波書店), pp. 52-69, 2007 年 11 月号.

阿部宏, 「トートロジーと主観性について」, 『日本認知言語学会論集』第 8 巻,

- pp. 212-222, 2008 年 5 月 10 日.
- 阿部宏, 「日本語における「望ましき」概念について, On the notion of «desirability» in Japanese」, *Proceedings of the International Conference in Japanese Studies; Civilisation of evolution. Civilisation of revolution. Metamorphoses in Japan 1900-2000*, Jagiellonian University, Krakow, Poland (印刷中)
- Hiroshi ABE 《La tautologie et la notion subjective de “désirabilité”》, *Current Issues in Unity and Diversity of Languages, Collection of the papers selected from the 18th International Congress of Linguists held at Korea University in Seoul on July 21-26*, Published by The Linguistic Society of Korea,, Printed by Dongnam Publishing Co., pp. 3266-3278, 2009 年 2 月 25 日.
- 今井勉 「『呪われた詩人たち』のマラルメ」, 『東北大学文学研究科研究年報』第 54 号, 東北大学大学院文学研究科, pp. 82-108, 2005 年.
- 今井勉 「クレオール文化学入門篇——テキスト・映像・音楽を手がかりとして——」, 平成 15~16 年度科学研究費補助金・基盤研究(C)(2) 研究成果報告書『仏語表現クレオール文学の詩学』, pp. 21-38, 2005 年; 『文化』第 69 巻第 1・2 号, 東北大学文学会, pp. 23-42, 2005 年.
- 今井勉 『ポール・ヴァレリー『註と余談』の生成研究』, 平成 15-16 年度科学研究費補助金・基盤研究(C)(2) 研究成果報告書, 80 p., 2005 年.
- 今井勉 「私の方法への Intromission」, 『現代詩手帖』特集「ヴァレリーの新世紀」, 思潮社, pp. 88-91, 2005 年.
- 今井勉 「再び冒頭をめぐって」, 『東北大学文学研究科年報』第 55 号, 東北大学大学院文学研究科, pp. 94-114, 2006 年.
- 今井勉 「同一化原理をめぐって」, 『フランス文学研究』第 26 号, 東北大学フランス語フランス文学会, pp. 24-36, 2006 年.
- 今井勉 「フランス国立図書館草稿部所蔵『ド・ロヴィラ夫人関連資料』——解読と翻訳の試み——」 翻訳篇(下) (恒川邦夫・塚本昌則との共同作業), 『ヴァレリー研究』第 4 号, 日本ヴァレリー研究会, pp. 59-71, 2007 年.
- Tsutomu IMAI, « Repenser l'incipit », *Valéry et Léonard : le drame d'une rencontre, Genèse de l'Introduction à la méthode de Léonard de Vinci*, Christina Vogel(éd.), Peter Lang, Frankfurt am Main, pp. 85-95, 2007 年
- 今井勉『ポール・ヴァレリー文明論テキストの生成論的研究』 平成 17~19 年度科学研究費補助金研究(基盤研究(C), 研究代表者今井勉, 課題番号 17520143) 研究成果報告書, 96 p., 2008 年 3 月.

- Tsutomu IMAI, « Au-delà de l'eurocentrisme – Valéry est-il possible dans le contexte postcolonial ? – », *Paul Valéry « Regards » sur l'histoire*, Études réunies par Robert Pickering, Presses Universitaires Blaise-Pascal, Clermont-Ferrand, pp. 211-220, 2008 年.
- Yann MEVEL 《 La chute des corps. De Beckett à Duras[Marguerite Duras] 》, in *Marges et transgressions*, 2006 年.
- Yann MEVEL 《 Une mélancolie des temps modernes? – Beckett entre monstrueux et obscène 》, in *Samuel Beckett Today / Aujourd'hui*, 2006 年.
- Yann MEVEL 《 A perte de vue. L'esthétique mélancolique de Jean-Philippe Toussaint dans *Faire l'amour* 》, in *Ecrire la ville*, Paris, Kimé, 2006 年.
- Yann MEVEL “Lire Beckett avec Starobinski”, *Journal of Beckett Studies*, Vol. 16, No. 16, “Transnational Beckett”, sous la direction de S. Gontarski, Florida State University Press, 2007 年.
- Yann MEVEL “Mille et une nuits. Poétique de la nuit chez S. Beckett”, *Le Nouveau Roman en question : vers une écriture des ruines, vers une ruine de l'écriture?*, sous la direction de J. Faerbder, Minard, 2008 年.
- Yann MEVEL “Beckett et le devenir du paysage, Beckett et les quatre éléments”, *Samuel Beckett Today / Aujourd'hui*, sous la direction de K. Germoni, 2008 年.
- Yann MEVEL “M. Duras : Nuit(s) de la pensée, esthétique(s) de la nuit”, *Duras et la pensée contemporaine*, Actes publiés sous la direction d'E. Ahlstedt et C. Bouthors-Paillart, Université de Göteborg, Acta Universitatis Gothoburgensis, 2008 年.
- Yann MEVEL “Une émancipation de la nuit? – La figure de la femme japonaise dans la littérature de langue française”, *Actes du colloque internationale Représentations comparées du féminin en Orient et en Occident*, Université de La Réunion, sous la direction de Ch. Meure et M.-F. Bosquet, 2008 年.
- Yann MEVEL “La coyote et le chien dingo, poétique de l'ambivalence et ambivalence du désir dans La Grande Beune”, *Mélanges en hommage aux Professeurs Jacques Dugast et Francine Dugast-Portes*, ouvrage sous la direction de P. Bazantay et J. Cléder, Presses Universitaires de Rennes, 2008 年.
- 翠川博之「戯曲『トロイアの女たち』における支配をめぐる考察」, 『フランス文学研究』第 26 号, 東北大学フランス語フランス文学会, pp.47-66, 2006 年.

翠川博之「魚が水に棲むように —サルトルの遺稿「道徳と歴史」について—」,  
『東北大学文学研究科研究年報』第 56 号, 東北大学大学院文学研究科,  
pp.73-105, 2006 年.

翠川博之「アンガジュマンの由来と射程—主観性からの再起」, 『ポストコロニ  
アル批評の諸相』岩田美喜・竹内拓史編, 東北大学出版会, pp.201-232, 2008  
年 3 月 28 日.

## 1-2 著書・編著

Yann MEVEL *L'imaginaire de Samuel Beckett, de Murphy à Comment c'est*, Rodopi  
(Amsterdam / New York), 2008 年.

## 1-3 翻訳, 書評, 解説, 辞典項目等

阿部宏 「Saussure が隠蔽したもの・日本フランス語学会シンポジウム「ソシ  
ール研究の現在」報告」, 『フランス語学研究』(日本フランス語学会) 第  
39 号, pp. 89-91, 2005 年 6 月 1 日.

阿部宏 「渡邊淳也 (2004) 『フランス語における証拠性の意味論』, 早美出版」,  
『フランス語学研究』(日本フランス語学会) 第 39 号, pp. 86-87, 2005 年 6  
月 1 日.

阿部宏 「シンポジウム報告・フランス研究とフランス語教育について考える(東  
北大学文学研究科主催シンポジウム)」, *Revue japonaise de didactique du  
français*, Vol. 1, n. 1, *Etudes didactiques* (の本フランス語教育学会), pp. 208-210,  
2006 年 7 月 14 日.

阿部宏 「フランス語の心の声」, 『ふらんす』(白水社) 連載, 2006 年 8 月号～  
11 月号.

阿部宏 「シンポジウム報告・文学・語学テキストのコーパス分析 -フランス語・  
英語・日本語- (日本フランス語学会シンポジウム)」, 『フランス語学研究』  
(日本フランス語学会) 第 41 号, pp. 81-93, 2007 年 6 月 1 日.

阿部宏 「シンポジウム報告・半過去をめぐって (日本フランス語学会シンポジウ  
ム)」, 『フランス語学研究』(日本フランス語学会) 第 41 号, pp. 94-101,  
2007 年 6 月 1 日.

阿部宏 「シンポジウム報告・構造主義とは何だったのか」(日本フランス語学会  
シンポジウム) (阿部宏・泉邦寿・青柳悦子・加賀野井秀一), 『フランス  
語学研究』(日本フランス語学会) 第 43 号, pp. 95-100, 2009 年 6 月 1 日.



- 阿部宏「新刊紹介・Larrivee, P. (2008) : *Une histoire du sens*, P.I.E. Peter Lang」, 『フランス語学研究』 (日本フランス語学会) 第 43 号, pp. 85-86, 2009 年 6 月 1 日.
- 阿部宏「海外報告・The 18th International Congress of Linguists」, 『フランス語学研究』 (日本フランス語学会) 第 43 号, pp. 114-115, 2009 年 6 月 1 日
- 今井勉 「トゥッサン・ルーヴェルチュールからエメ・セゼールまで」 (ルネ・ドゥペストル) , 平成 15-16 年度科学研究費補助金・基盤研究(C)(2)研究成果報告書『仏語表現クレオール文学の詩学』, pp. 93-104, 2005 年.
- 今井勉 「クレオールをめぐる連続シンポジウム」, 『フランス文学研究』第 24 号, 東北大学フランス語フランス文学会, pp. 58-59, 2004 年.
- 今井勉 「時空の旅, 二つ」, 『フランス文学研究』第 25 号, 東北大学フランス語フランス文学会, pp. 59-60, 2005 年.
- 今井勉 「レオナルドの頃のヴァレリー」, 『フランス文学研究』第 26 号, 東北大学フランス語フランス文学会, pp. 24-36, 2006 年.
- 今井勉 ダニエル・バジオーニ『ヨーロッパの言語と国民』 筑摩書房、449 p. (原著 Daniel Baggioni, *Langues et nations en Europe*, Paris, Payot, 1997, 378 p. ) 2006 年 10 月.
- 今井勉 アントワーヌ・コンパニオン「今日の写真小説」, 『水声通信』第 31 号, 水声社, pp. 35-55, 2009 年 9 月.
- Yann MEVEL Luc Lagier 《 Hiroshima mon amour 》, Cahiers du Cinéma – SCEREN-CNDP, 2007.
- 翠川博之「『出口なし』と「出口なし」」, 『フランス文学研究』第 27 号、東北大学フランス語フランス文学会, pp.73-77. 2007 年.
- 翠川博之「書評・山縣熙, 『劇作家サルトル』 (作品社, 2009 年)」, 『図書新聞』2913 号, 4 面, 2009 年 4 月 11 日.

#### 1-4 口頭発表

- 齊藤征雄 シンポジウム「米糠をめぐるアジアの食文化」日本国際文化学会・パネリスト「アジアの文化」於名桜大学、2007 年 7 月 15 日.
- 阿部宏 「熟語「多少」と主体化について」, 第 6 回日本認知言語学会, 於お茶の水女子大学, 2005 年 9 月 17 日.
- 阿部宏 日本フランス語学会シンポジウム「時・相・法: フランス語・ドイツ語・スペイン語の対照的観点から」オーガナイズ, 於東京大学 (駒場), 2005

年 12 月 17 日.

阿部宏 東北大学大学院文学研究科主催シンポジウム「フランス研究とフランス語教育について」オーガナイズ・司会, 於東北大学, 2005 年 12 月 27 日.

阿部宏 「トートロジーについて」, 第 231 回日本フランス語学会例会, 於東京大学, 2006 年 4 月 15 日.

阿部宏 日本フランス語学会シンポジウム「文学・語学テキストのコーパス分析 -フランス語・日本語・英語-」オーガナイズ・司会, 於慶應義塾大学, 2006 年 5 月 20 日.

Hiroshi ABE 《Les deux grandes choses que Saussure n'a pas dites》, Saussure et la science des textes, 21st century COE Program, Studies for the Integrated Text Science, Colloque international, Nogoya University, 2006 年 11 月 3 日.

阿部宏 日本フランス語学会シンポジウム「半過去をめぐって」(於東京大学), オーガナイズ・司会, 2006 年 12 月 16 日.

阿部宏 フランス語談話会「アスペクトをめぐって」(於東京大学), オーガナイズ・司会, 2007 年 7 月 14 日.

阿部宏 「トートロジーと主観性について」, 第 8 回日本認知言語学会, 於成蹊大学, 2007 年 9 月 22 日.

阿部宏 「日本語における「望ましき」概念について On the notion of «desirability» in Japanese」, The International Conference in Japanese Studies 'Civilisation of Evolution. Civilisation of Revolution. Metamorphoses in Japan 1900-2000' Jagiellonian University (Krakow), 2007 年 10 月 24 日.

阿部宏 「ソーシャルの恣意性概念と言語における主観性について」, シンポジウム「ソーシャル 150 年 -新手稿・主体・時間・人称・倫理-」(東北大学大学院文学研究科主催) (於東北大学), 2008 年 1 月 25 日.

阿部宏 「シャルル・バイイの一節をめぐって -au moins, du moins, encore moins と主観性-」, 第 246 回日本フランス語学会例会, 於慶應義塾大学, 2008 年 4 月 26 日.

Hiroshi ABE 《La tautologie et la notion subjective de “désirabilité”》, The 18<sup>th</sup> International Congress of Linguists, Korea University (Seoul), 2008 年 7 月 21 日.

阿部宏「主観性と文法化・無意味文・省略文」, 「ことばに主体はどのようにあらわれるか: フランス語と認知言語学」(日本フランス語学会・シンポジウム)(於中央大学), 2009 年 5 月 23 日,

Hiroshi ABE 「Étude contrastive japoно-française sur la “désirabilité”」, Troisième

- colloque international de l'Association Française de Linguistique Cognitive (Paris Ouest Nanterre La Défense) , 2009 年 5 月 27 日.
- 阿部宏「ソーシャルと主体概念」, 「ソーシャルと 19 世紀 – 自筆草稿への新たな視点」 (日本フランス語フランス文学会本会秋季大会) (於熊本大学) , 2009 年 11 月 8 日.
- Tsutomu IMAI «Au-delà de l'eurocentrisme – Valéry est-il possible dans le contexte postcolonial? –», Colloque international *Paul Valéry et l'Histoire*, Université Blaise Pascal, Clermont-Ferrand, 2004 年 5 月 14 日.
- Tsutomu IMAI «Repenser à l'incipit: signification et valeur des changements observés », CNRS・ITEM (フランス国立科学研究所所属近代テキスト草稿研究所) ヴァレリー研究班セミナー, フランス国立図書館, 2005 年 12 月 17 日.
- 今井勉「始まりの始まり—『レオナルド・ダ・ヴィンチ方法序説』冒頭の生成をめぐって」, 日本フランス語フランス文学会東北支部大会「テキスト生成論シンポジウム: マニユスクリは何を語るか」, 於東北大学, 2007 年 12 月 1 日.
- 今井勉「ヴァレリー=ポー/根源的詩学の探求—ポー『詩学の哲学』とヴァレリー『レオナルド・ダ・ヴィンチ方法序説』を中心に—」, 日本ポー学会ポー生誕 200 年記念第 2 回年次大会ワークショップ「19-20 世紀フランス文学におけるポーの影響」, 於慶應義塾大学, 2009 年 9 月 20 日.
- Yann MEVEL 《 La chute des corps. De Beckett à Duras 》, 国際学会“Marguerite Duras : Marges et transgressions”, Nancy (France) ,2005 年 3 月 31 日.
- Yann MEVEL 《 De l'obscène selon Beckett 》, 国際学会“19e congrès du Conseil International d'Etudes Francophones”, Ottawa (Canada) ,2005 年 6 月 27 日.
- Yann MEVEL 《 Une mélancolie des temps modernes? - Beckett entre monstrueux et obscène 》, 国際学会“Présence de Samuel Beckett”, Cerisy-la-Salle (France) , 2005 年 8 月 1 日.
- Yann MEVEL 《 Mille et une nuits. La poétique de la nuit chez Samuel Beckett 》, 日本フランス語フランス文学会東北支部大会, 於弘前大学, 2005 年 11 月 12 日.
- Yann MEVEL 《 Lire Beckett avec Starobinski 》, 国際学会“Samuel Beckett at 100 : New Perspectives”, Floride (Etats-Unis) , 2006 年 2 月 9 日.
- Yann MEVEL《M.Duras : nuit(s) de la pensée, esthétique(s) de la nuit》, マルグリット・デュラス国際学会—Marguerite Duras et la pensée contemporaine—, (於スウェーデン, Göteborg 大学) 2007 年 5 月 12 日.

Yann MEVEL “Une communication de la nuit? - La figure de la femme japonaise dans la littérature de langue française”, Colloque international Représentations comparées du féminin en Orient et en Occident, Université Saint Denis de La Réunion, sous la direction de M. F. Bosquet et Ch. Meure, 2007 年.

Yann MEVEL “Oh tout finir? Sur le motif de la disparition dans Je m’en vais, de Jean Echenoz”, Le Malaise existentiel dans le roman français de l’extrême contemporain, sous la direction de M. C. Clément et S. van Wesemael, Université d’Amsterdam, 2008 年.

Yann MEVEL 《 Etre ou ne pas être écrivain? – Autour de *La Dernière bande* de Samuel Beckett 》, 国際学会 《 Impuissance(s) de la littérature ? 》 (Université de Gafsa) 2009 年 4 月 2-4 日.

Yann MEVEL 《 M.Duras : poétique des sensations dans l’œuvre indochinoise 》, マルグリット・デュラス国際学会 《 Oriens de Marguerite Duras 》 (於東北大学) 2009 年 9 月 10 日.

翠川博之「構造主義と実存主義—構造と歴史の接点をめぐって」, シンポジウム「ソシユール 150 年 –新手稿・主体・時間・人称・倫理-」 (東北大学大学院文学研究科主催) (於東北大学), 2008 年 1 月 25 日.

## 2 教員の受賞歴 (2005～2009 年度)

なし

## IV 教員による競争的資金獲得 (2005～2009 年度)

### (1) 科学研究費補助金

平成 17～19 年度 研究課題番号:17520143 基盤研究(C)研究代表者:今井勉「ポール・ヴァレリー文明論テキストの生成論的研究」(平成 17 年度・直接経費 1,200,000 円,平成 18 年度・直接経費 1,100,000 円,平成 19 年度・直接経費 900,000 円,間接経費 270,000 円)

平成 20～22 年度 研究課題番号:20520274 基盤研究(C)研究代表者:今井勉「ポール・ヴァレリー詩学の生成論的研究」(平成 20 年度・直接経費 1,200,000 円,間接経費 360,000 円,平成 21 年度・直接経費 1,100,000 円,間接経費 330,000 円)

平成 19～21 年度 研究課題番号 19520323 基盤研究 (C) 研究代表者:阿部宏「言語における「望ましき」概念と主観性に関する研究」(平成 19 年度・直接

経費 1,000,000 円, 間接経費 300,000 円, 平成 20 年度・直接経費 900,000 円,  
間接経費 270,000 円, 平成 21 年度・直接経費 1,000,000 円, 間接経費 300,000  
平成 20~22 年度 研究課題番号: 20520275 基盤研究(C)研究代表者: 翠川博之  
「サルトル演劇に見るモラルの研究」(平成 20 年度・直接経費 800,000 円,  
間接経費 240,000 円, 平成 21 年度・800,000 円, 平成 22 年度・1,600,000  
円)

## (2) その他

阿部宏 慶應義塾大学文学部 21 世紀 COE 「心の解明に向けての統合的方法論構  
築」プロジェクト, 「心性史班」研究分担者 (2003 年度~2006 年度)  
阿部宏 科学技術振興機構・社会技術研究事業・公募研究, 「脳科学と教育タイ  
プ II」, 「母語獲得研究グループ」メンバー (2004 年度~)

## V 教員による社会貢献 (2005~2009 年度)

阿部宏

オープンキャンパス公開講義「ことばの科学」, 2005 年 7 月 29 日.  
「ことばの科学」, 福島県立磐城高等学校出張講義, 2006 年 10 月 16 日  
「ことばとこころ」, 宮城県立泉館山高等学校出張講義, 2007 年 4 月 27 日.  
第 25 回全国国公立大学対抗相撲大会会長 (於仙台宮城野原運動公園),  
2007 年 5 月 27 日.  
国立七大学体育大会 オープン戦・相撲競技 大会委員長 (於仙台宮城野原  
運動公園), 2008 年 8 月 17 日.

今井勉

「クレオール文芸入門」, 山形県立長井高等学校「ミニカレッジ」, 2005  
年 9 月 17 日.  
「地中海賛歌——ヴァレリーの詩『海辺の墓地』を読む」, みやぎ県民大学  
「大学開放講座」, 於東北大学, 2008 年 9 月 6 日.  
「文学都市パリの構造」, 福島県立安積高等学校出張講義, 2009 年 7 月 2  
日.

## VI 教員による学会役員等の引き受け状況 (2005~2009 年度)

齊藤征雄

日本フランス語フランス文学会 学会のあり方検討委員会 委員 (2000 年 4

月～2006年3月)。

阿部宏

日本フランス語学会 編集委員(1995年6月～2007年3月), 運営委員(2004年6月～2006年5月)

日本フランス語フランス文学会 編集委員(2001年6月～2005年5月), 資料調査委員(2001年6月～2006年5月)

東北大学フランス語フランス文学会 会長(2004年4月～)

日本フランス語フランス文学会東北支部会支部会誌編集責任者(2008年4月～)

日本フランス語フランス文学会 編集委員(2009年5月～)

今井勉

日本フランス語フランス文学会 学会誌編集委員会委員(2003年6月～2007年5月)。

東北大学フランス語フランス文学会 役員(1997年4月～); 編集委員長(2001年4月～)。

ヤン・メヴェル

サミュエル・ベケット国際学会共同主催者: “Présence de Samuel Beckett”, Cerisy-la-Salle, 2005年8月1日～2005年8月11日, 役職名: responsable scientifique et intervenant.

マルグリット・デュラス国際学会共同主催者: 《Orientes de Marguerite Duras》(於東北大学) 2009年9月9-11日。

役職名: responsable scientifique et intervenant.

翠川博之

東北大学フランス語フランス文学会 役員, 編集委員(2004年4月～)

## Ⅶ 教員の教育活動(2009年度)

### (1) 学内授業担当

#### 1 大学院授業担当

阿部宏 教授

1学期 フランス語学研究演習Ⅰ フランス語学の現代的トピックⅠ

2学期 フランス語学研究演習Ⅱ フランス語学の現代的トピックⅡ

通年 課題研究(フランス語学フランス文学)

今井勉 准教授

- 1 学期 フランス文学特論Ⅰ ヴァレリーと美術 (1)
- 2 学期 フランス文学特論Ⅱ ヴァレリーと美術 (2)
- 1 学期 フランス文学研究演習Ⅲ ヴァレリー『ユーパリノスまたは建築家』  
を読む (1)
- 2 学期 フランス文学研究演習Ⅳ ヴァレリー『ユーパリノスまたは建築家』  
を読む (2)
- 通 年 課題研究 (フランス語学フランス文学)

ヤン・メヴェル 准教授

- 1 学期 フランス語学研究演習Ⅲ Marguerite Duras (1)
- 2 学期 フランス文学研究演習Ⅴ Annie Ernaux (1)
- 1 学期 フランス語学研究演習Ⅳ Marguerite Duras (2)
- 2 学期 フランス文学研究演習Ⅵ Annie Ernaux (2)

## 2 学部授業担当

阿部宏 教授

- 1 セメスター 人文社会序論
- 3 セメスター フランス語学基礎講読
- 4 セメスター フランス語学概論
- 5 セメスター フランス語学演習Ⅰ
- 6 セメスター フランス語学演習Ⅱ

今井勉 准教授

- 3 セメスター フランス文学概論Ⅰ パリをめぐる文学散歩
- 4 セメスター フランス文学基礎講読Ⅰ 文学テキスト講読
- 5 セメスター フランス文学各論Ⅰ ヴァレリーと美術 (1)
- 6 セメスター フランス文学各論Ⅱ ヴァレリーと美術 (2)
- 5 セメスター フランス文学演習Ⅲ ヴァレリー『ユーパリノスまたは建築家』  
を読む (1)
- 6 セメスター フランス文学演習Ⅳ ヴァレリー『ユーパリノスまたは建築家』  
を読む (2)

ヤン・メヴェル 准教授

- 5 セメスター フランス文学演習Ⅰ Lire sur les visages (1)
- 6 セメスター フランス文学演習Ⅱ Lire sur les visages (2)

5 セメスター フランス語科教育法 I Langue et culture de la France  
contemporaine (1)

6 セメスター フランス語科教育法 II Langue et culture de la France  
contemporaine (2)

### 3 共通教育・全学教育授業担当

阿部宏 教授

1 セメスター 展開フランス語 I

2 セメスター 展開フランス語 II

今井勉 准教授

1 セメスター 基礎フランス語 I

2 セメスター 基礎フランス語 II

2 セメスター 総合科目 (世界の食と文化) 「フランスの食と文化」担当

ヤン・メヴェル 准教授

1 セメスター 展開フランス語 I

2 セメスター 展開フランス語 II

#### (2) 他大学への出講 (2005~2009 年度)

阿部宏 教授

2005 年度 名古屋大学 (集中講義)

2006 年度 愛知県立大学 (集中講義)

今井勉 准教授

2005 年度 宮城学院女子大学

2008 年度 神戸大学 (集中講義)

翠川博之 助教

2006 年度 東北学院大学・宮城学院女子大学

2007 年度 東北学院大学・宮城学院女子大学

2008 年度 東北学院大学・宮城学院女子大学